「みよし市なかよし中央地区」都市再生整備計画事業事後評価

第１回　事後評価検討会議　次第

とき　　平成 29 年 9 月 22 日（金）
　　午前 10 時～11 時 30 分まで
ところ　図書館学習交流プラザ　サンライブ
　　３階　会議室１

１．開会

２．現地視察

３．議　事

（１）事後評価制度の概要説明

（２）まちづくりの経緯　　資料１

（３）数値指標到達状況と効果発現要因の整理

【参考資料１】都市再生整備計画　みよし市なかよし中央地区
【参考資料２】事後評価シート原案

４．閉　会

資料1

平成29年8月23日

「みよし市なかよし中央地区」
都市再生整備計画
第1回　事後評価検討会議

みよし市教育委員会　教育部生涯学習推進課

次第

- 事後評価制度の概要説明
  1. 制度の概要
  2. 事業評価
  3. 事後評価の実施方法
  4. 事後評価のスケジュール

- まちづくりの経緯
  1. 都市再生整備計画事業の概要

- 数値指標到達状況と効果発現要因の整理
  1. 数値指標
  2. 数値指標達成状況と効果発現要因の整理
  3. 実施過程の評価

事後評価制度の概要説明

1. 制度の概要
2. 事業評価
3. 事後評価の実施方法
4. 事後評価スケジュール

1．制度の概要

都市再生整備計画事業（従来のまちづくり交付金事業）の概要

〇都市再生特別措置法第46条第1項の都市再生整備計画に基づく事業等（提案事業も含む）
〇平成22年度創設の社会資本整備総合交付金の基幹事業として位置づけ。
（既に国土交通大臣に提出された都市再生整備計画については、当該交付期間内は「特定計画」として、新たに社会資本総合整備計画を作成し提出することなく新交付金の交付が可能。）

社会資本総合整備計画（市街地整備分野）の作成

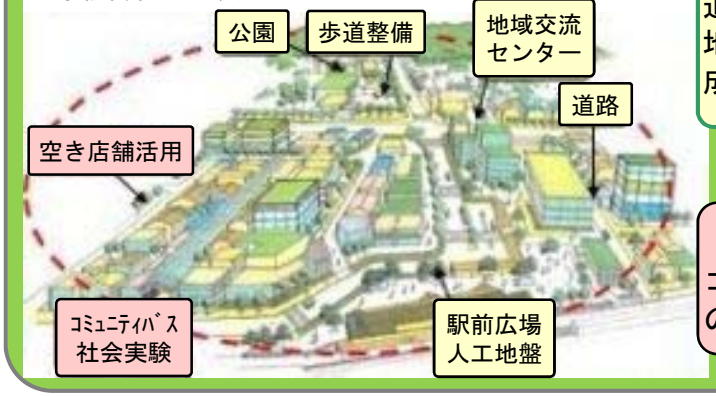
他の基幹事業を適宜組み合わせ、また必要に応じて一体的に実施する関連事業を組み合わせることにより、効果的なまちづくりを実施。

基幹事業

〇都市再生整備計画事業（従来のまちづくり交付金事業）

基礎額となる国費は従来のまちづくり交付金の国費率計算と同様。（概ね4割）

市町村は都市再生整備計画作成、提出
（事前評価＋公表）



道路、公園、河川、下水道、地域交流センター、高質空間形成施設、既存建造物活用事業

＋

（提案事業）
コミュニティバスの社会実験等のソフト事業等

＋

都市公園等事業、市街地整備事業、都市水環境整備事業　等

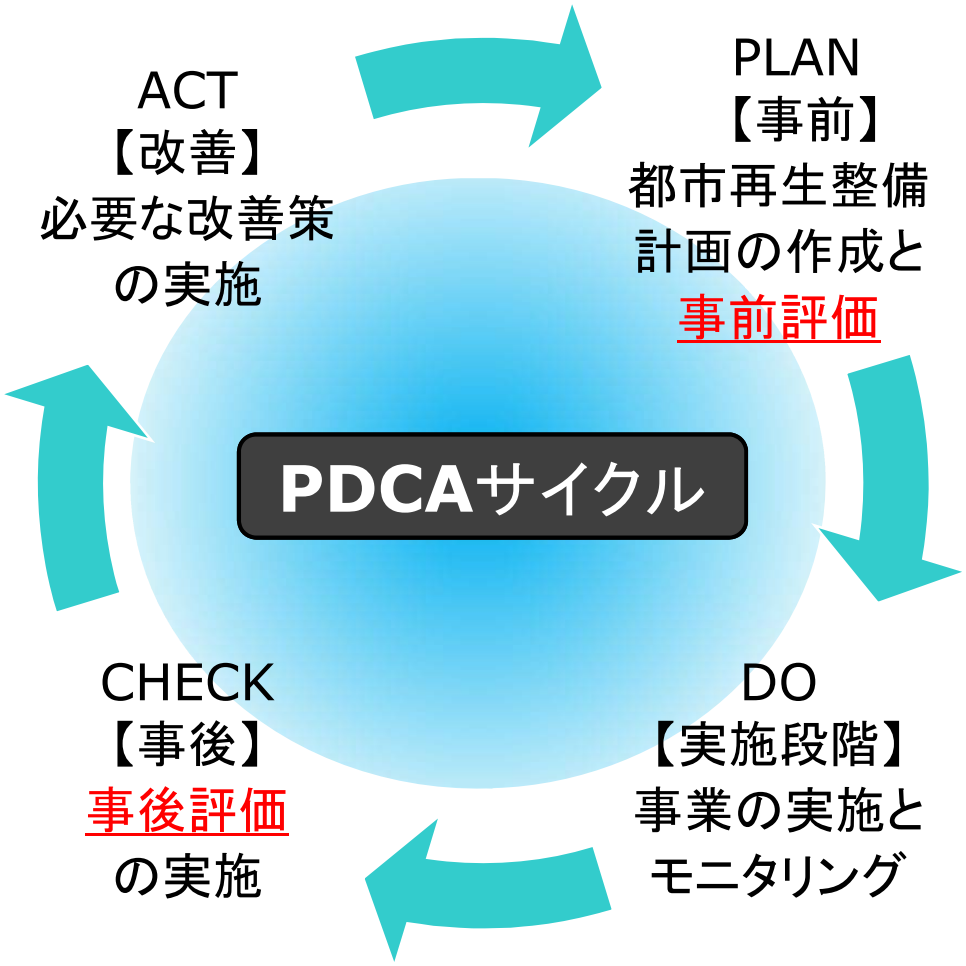
＋

関連事業

関連社会資本整備事業

効果促進事業

2. 事業評価　1/2



都市再生整備計画事業の評価の特徴

1. ＰＤＣＡサイクルの確立

- 事後評価の重視と事業の成果を踏まえた「今後のまちづくり方策」の作成。

2. わかりやすさと透明性の確保

- 事前に数値目標を設定し、交付終了年度に達成度を確認・公表。

3. 市町村の主体的な取り組み

- 市町村自らが目標、指標、数値目標を設定し、事前・事後評価を実施。

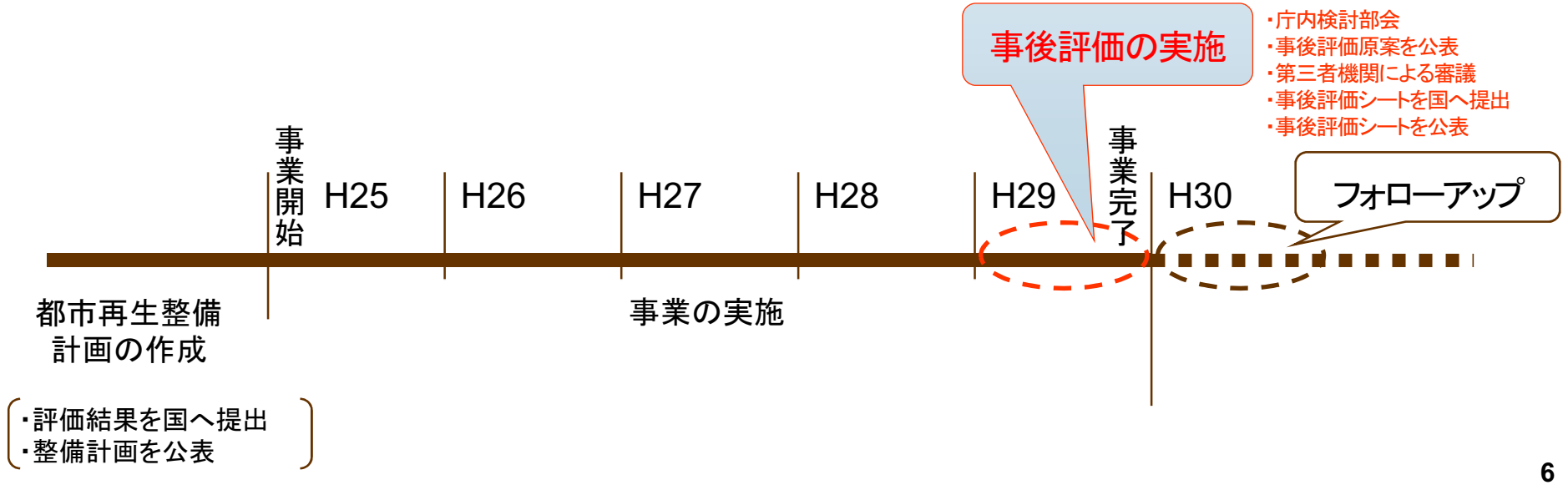
2. 事業評価　2/2

○ 事後評価の目的

・ 交付金による事業がもたらした成果等を客観的に診断し、成否の要因を分析して、今後のまちづくりを適切な方向に導くとともに、これらを住民に分かりやすく説明することを目的とする。

○ 事後評価の内容

・ 方法書の作成
　事後評価の円滑な実施のため、「方法書」を作成
・ 事業の成果及び実施過程の検証
　数値目標の達成度等について検証
・ 今後のまちづくり方策の検討
　今後のまちづくり方策、目標を達成するための改善措置を作成



3. 事後評価の実施方法　1/2

庁内検討会の目的・意義

・都市再生整備計画事業は、まちづくりの課題を抱えた地区に対して、課題解決のために幅広く必要な事業を位置づけ、問題解決を図っていく事業である。
・まちづくりの課題は都市計画や都市整備の分野だけでなく、庁内の様々な部局が所管する施策に関係する。
・そこで庁内関係部署が参加する庁内検討会において、各々の事業の効果発現要因の分析を行うとともに、今後のまちづくりの方策等について検討を行うものとする。

庁内検討部会の開催

- 事業担当課（生涯学習推進課）が主管となり、事業に関わる全ての課による庁内検討会を開催
- 実施日時　：平成29年8月23日（水）13:30～
- 出　席　者　：企画政策課、子育て支援課、道路河川課、下水道課、都市計画課、公園緑地課、教育行政課、生涯学習推進課
- 検討内容　：都市再生整備計画事業についての説明
  都市再生整備計画の概要
  事業実施成果の報告
  効果発現要因の整理
  実施過程の評価
  今後のまちづくり方策の検討

事業担当課（生涯学習推進課）でのとりまとめ

事後評価原案の公表

- 公表時期　：平成29年9月16日～30日
- 公表方法　：市広報への掲載により周知し、生涯学習推進課意見窓口での閲覧、ホームページでの掲載により公表。

事後評価検討会議による審議

■三宅　章介　（東海学園大学名誉教授）
■小野田　文則（三好上区長）
■金子　正明　（中島区長）
■富樫　佐智子（みよし市文化協会会長）
■三井　敬子　（図書館協議会副会長）
■谷端　浩明　（みよし悠学カレッジ受講生代表）

3. 事後評価の実施方法　2/2

評価委員会の必要性

都市再生整備計画事業における事後評価の主体である市町村は、自らの取り組みにより、事後評価結果の合理性・客観性を担保する必要がある。

評価委員会の目的・意義

・事後評価の手続き及び都市再生整備計画の目標の達成状況の確認等の結果について、その妥当性を審議し、不適切な点または改善すべき点があると認められた場合は、意見の具申を行う。

・今後のまちづくり等の内容の妥当性について審議し、不適切な点または改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。

4. 事後評価のスケジュール

事業評価実施項目 ＼ 月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 計画準備	⇔										
② 方法書の作成		⇔									
③ 成果の評価(指標1～指標4)			⇔	⇔							
④ 実施過程の評価			⇔	⇔							
⑤ 効果発現要因の整理				⇔	⇔	⇔					
⑥ 今後のまちづくり方策				⇔	⇔	⇔					
⑦ 庁内検討部会				● 8月23日		● 10月中旬					
⑧ 事後評価原案の公表					⇔	⇔	9月上旬～10月中旬				
⑨ 都市再生整備計画事業 事後評価検討会議					○ 9月22日		○ 11月中旬				
⑩ 国への提出								●			
⑪ 事後評価結果（最終）の公表											1年公表 ⇒

まちづくりの経緯

1. 都市再生整備計画事業の概要

1. 都市再生整備計画事業の概要

都市再生整備計画事業の課題と目標

まちづくりの課題

〔課題1〕 文化・学習・交流の拠点形成

- 中心市街地内の特性、資源を生かし、景観等に配慮した、知的、文化的ニーズ、自己表現の自主的な活動及びみよし市の情報発信による多用途的な交流を創出する文化、学習、交流の拠点形成を図る。

〔課題2〕 施設の更新・再配置

- 中心市街地の公共施設は古くに建設されたものであり、狭小で陳腐化しているとともに老朽化が著しく進んでおり、本市の人口に見合った規模の魅力ある施設に更新しながら再配置を行う。

〔課題3〕 市民間交流のための施設整備

- きたよし地区、なかよし地区、みなよし地区の住民が交流する機会が少ないため、地区間、市民間交流の機会を増やすための施設整備を図る。

〔課題4〕 都市中枢機能の集約・更新

- 今後、本市が直面する、少子、高齢化に備え、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを行っていく必要があるため都市中枢機能の集約・更新を図る。

まちづくりの目標

「市民が気軽に集い交流ができる魅力ある中心市街地の構築」

目標1：魅力ある中心市街地の構築

文化・学習・交流をキーワードとした誰でも利用できる情報拠点を中心としたにぎわいと魅力あるまちづくり

目標2：市民の交流促進

市民が気軽に集うことができる安心安全な交流・活動の機会を創出

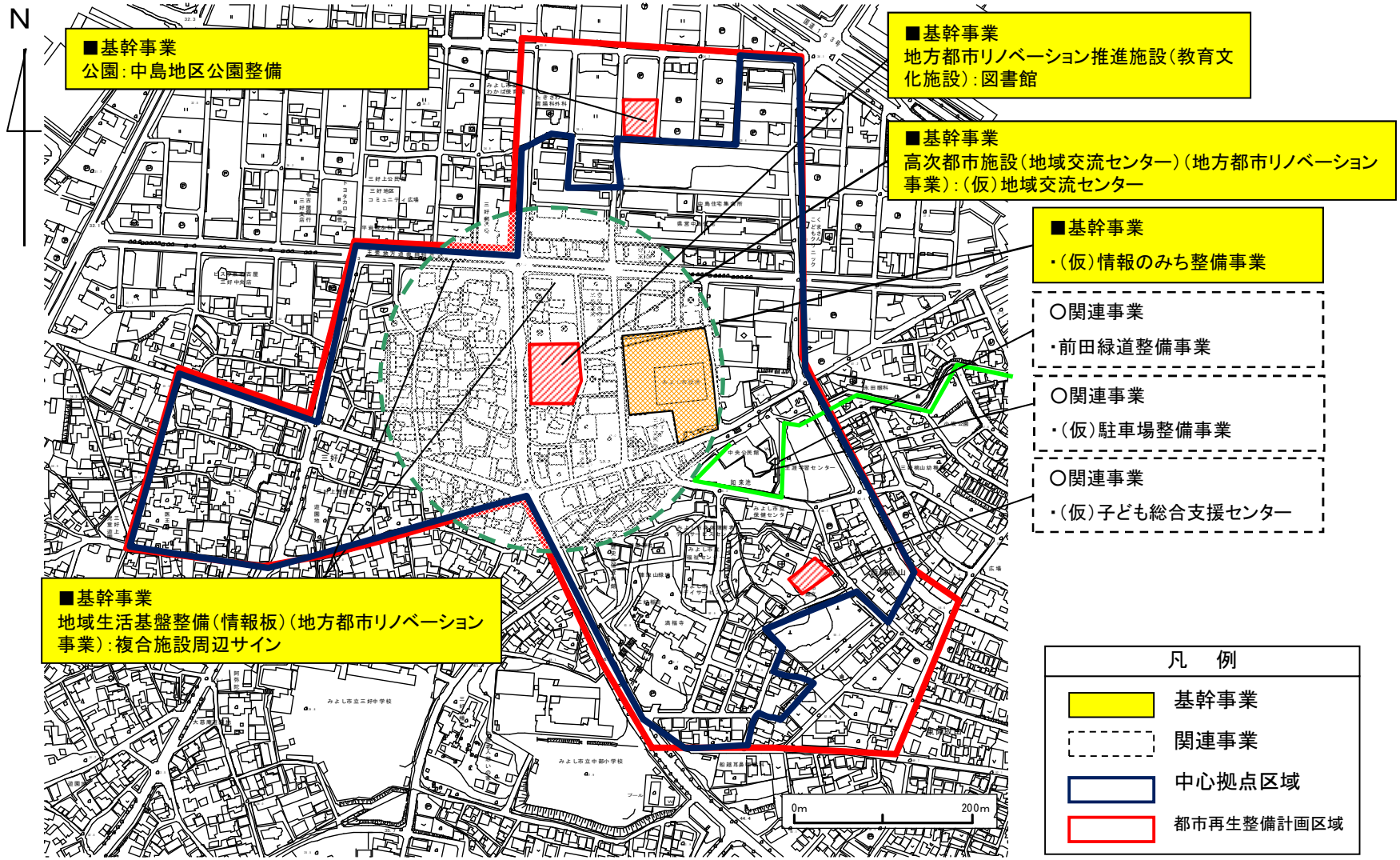
目標3：コンパクトなまちづくり

都市中枢機能が集約した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり

都市再生整備計画事業の指標

都市再生整備計画に掲載した指標	目　標　値
○ 交流施設の利用者数 複合施設の利用者の内図書利用以外の利用者数	平成29年度：50,559人／年 （平成25年度：47,355人／年）
○ 市民一人当たりの図書利用冊数 年間、一人当たりの図書利用冊数	平成29年度：6.9冊／人 （平成25年度：5.7冊／人）
○ さんさんバス利用者数 １年当たりの市内巡回バスの市役所西バス停利用者数	平成29年度：6,580人／年 （平成25年度：6,180人／年）
○ 市内の１人当たりの公園面積 市内１人当たりの公園面積	平成29年度：12.9㎡／人 （平成25年度：12.4㎡／人）

都市再生整備計画事業の整備内容



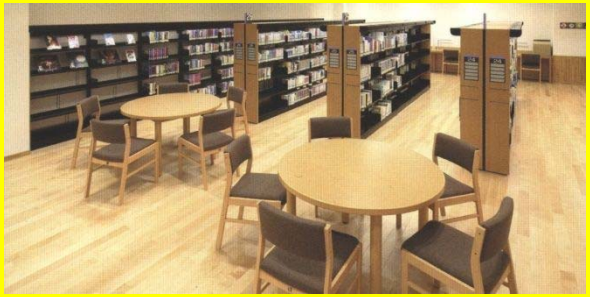
都市再生整備計画事業の整備内容

■基幹事業
地域生活基盤整備（情報板）
（地方都市リノベーション事業）：
複合施設周辺サイン

■基幹事業　公園：中島地区公園整備

■基幹事業
高次都市施設（地域交流センター）（地方都市リノベーション事業）：
（仮）地域交流センター

■基幹事業
地方都市リノベーション推進施設（教育文化施設）：図書館



○関連事業
・前田緑道整備事業

凡　例

- 基幹事業
- 関連事業
- 中心拠点区域
- 都市再生整備計画区域

0m　200m

■基幹事業
高質空間形成施設（カラー舗装）：
・（仮）情報のみち整備事業

○関連事業
・（仮）駐車場整備事業

○関連事業
・（仮）子ども総合支援センター

数値指標達成状況と効果発現要因の整理

1. 数値指標
2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理
3. 実施過程の評価

１．数値指標

● 都市再生整備計画に記載した事後評価指標は以下の4つの指標である。

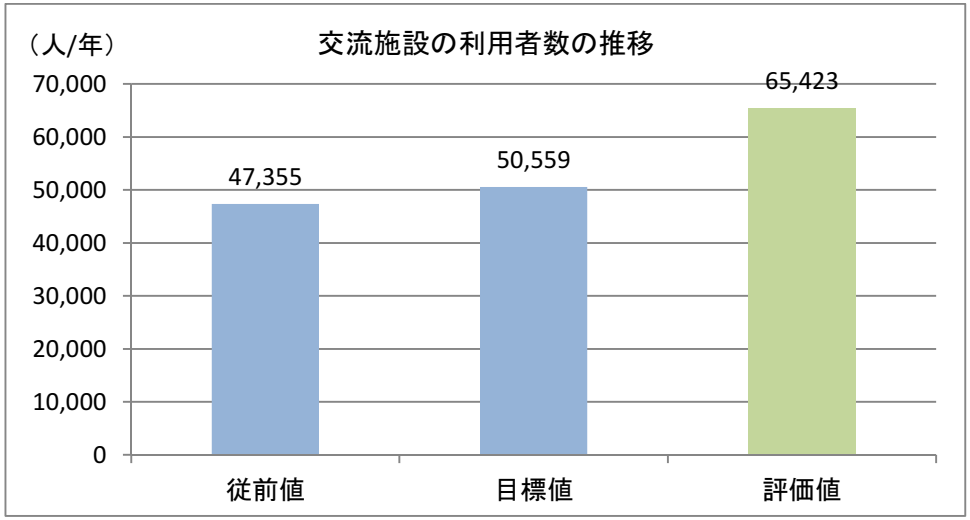
指標名	評価内容
指標１　交流施設の利用者数	市民交流の増加を複合施設利用者で評価する。
指標２　市民一人当たりの図書利用冊数	市民交流の機会の増加を一人当たりの図書利用冊数で評価する。
指標３　さんさんバス利用者数	にぎわいと交流の増加を巡回バスの利用者で評価する。
指標４　市内１人当たりの公園面積	市民交流、活動を市民一人当たりの公園面積で評価する。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標1　交流施設の利用者数

従前値：47,355人（平成25年度）
⇒目標値：50,559人（平成29年度）

定義等
交流施設の利用者数
評価値の求め方
複合施設の利用者の内、図書利用者以外の利用者数を計測 【補完指標】 補完指標として、市実施の来館者満足度調査における「おはなし会・講座などの催し物の満足度」「中央図書館利用者の満足度（全体の満足度）」を計測



従前値47,355人（平成25年度）	目標値50,559人（平成29年度）	評価値65,423人※（平成29年度）

※評価値は平成28年7月～平成29年6月の12ヶ月間の利用者数

補完指標：「おはなし会・講座などの催し物の満足度」　：82.1%（平成25年度）⇒91.8%（平成28年度）
「全体の満足度」　：88.7%（平成25年度）⇒90.2%（平成28年度）
いずれも満足度が上昇しており、施設整備による効果の発現がみられる。（各年来館者満足度調査結果）

（仮）地域交流センター（図書館学習交流プラザ『サンライブ』）の整備により、施設利用者数が増加し、目標が達成された。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標1　交流施設の利用者数

従前値：47,355人（平成25年度）
⇒目標値：50,559人（平成29年度）

指標直接該当事業

（基幹事業）高次都市施設（地域交流センター）
（地方都市リノベーション事業）
- （仮）地域交流センター

（基幹事業）地域生活基盤施設（情報板）
（地方都市リノベーション事業）
- 複合施設周辺サイン

（基幹事業）高質空間形成施設（カラー舗装）
- （仮）情報のみち整備事業

指標間接該当事業

（基幹事業）地方都市リノベーション推進施設（教育文化施設）
- 図書館

（関連事業）
- （仮）駐車場整備事業

（関連事業）
- （仮）子ども総合支援センター

（所　見）

- （仮）地域交流センターの整備により、文化、学習、交流に関して高度化、多様化した市民ニーズへの対応が可能となった。
- 併せて、複合施設周辺サインや（仮）情報のみち整備事業により、（仮）地域交流センター利用に対する利便性が向上した。
- この結果、（仮）地域交流センターの利用者が増加し、目標達成へとつながった。

（今後の活用）

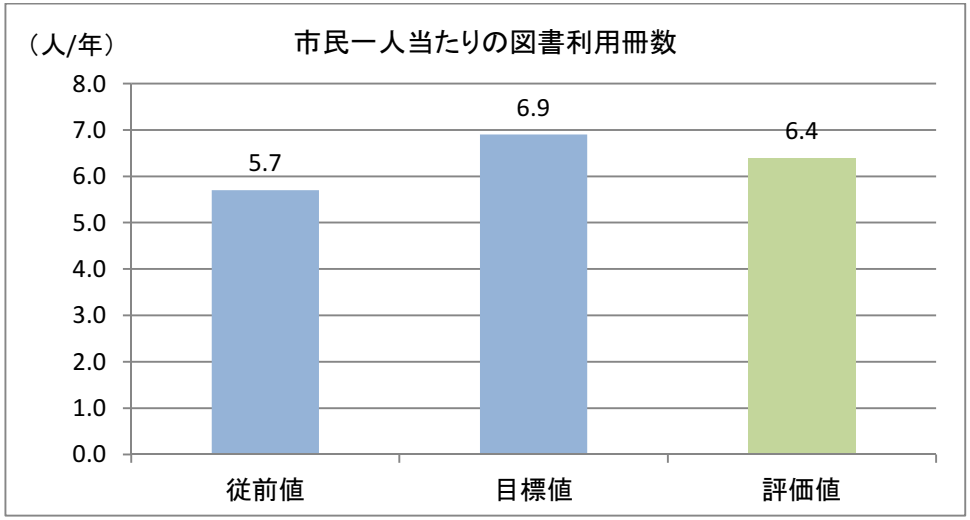
今後も（仮）地域交流センターを市民交流の拠点として活用していくため、広く市民に向けて、各種事業の情報発信を行うとともに、市民自らが行う、文化・学習・交流活動及び情報発信の支援に努める。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標2　市民一人当たりの図書利用冊数

従前値：5.7冊/人（平成25年度）
⇒目標値：6.9冊/人（平成29年度）

定義等
市民一人当たりの図書利用冊数
評価値の求め方
図書貸出冊数と人口をもとに、年間、一人当たりの図書利用冊数（冊／人）を計測 【補完指標】 補完指標として、市資料より図書館利用者数及び市実施の来館者満足度調査における「中央図書館利用者の満足度（全体の満足度）」を計測



従前値5.7冊/人（平成25年度）	目標値6.9冊/人（平成29年度）	評価値6.4人※（平成29年度）

※評価値は平成28年7月～平成29年6月の12ヶ月間の利用者数

補完指標：「図書館利用者数」　：110.9千人（平成25年度）⇒274.5千人※（平成29年度）
「全体の満足度」　：88.7%（平成25年度）⇒90.2%（平成28年度）（再掲）
図書館利用者数が2倍以上に増加し、満足度も高く、施設整備による効果の発現がみられる。（市資料、各年来館者満足度調査結果）

（仮）地域交流センター（図書館学習交流プラザ『サンライブ』）の整備により、市民一人当たりの図書利用冊数は増加し、図書館利用者数は大幅に増加、満足度も向上したものの、1人当たりの貸出冊数の見直し（無制限⇒20冊まで）や、収蔵冊数が目標に達していないこともあり、目標値の6.9冊/人を若干下回る結果となった。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標2　市民一人当たりの図書利用冊数

従前値：5.7冊/人（平成25年度）
⇒目標値：6.9冊/人（平成29年度）

<u>指標直接該当事業</u>

（基幹事業）地方都市リノベーション推進施設
（教育文化施設）
- 図書館

（基幹事業）地域生活基盤施設
（情報板）（地方都市リノベーション事業）
- 複合施設周辺サイン

（基幹事業）高質空間形成施設（カラー舗装）
- （仮）情報のみち整備事業

<u>指標間接該当事業</u>

（基幹事業）高次都市施設
（地域交流センター）
（地方都市リノベーション事業）
- （仮）地域交流センター

（関連事業）
- （仮）駐車場整備事業

（関連事業）
- （仮）子ども総合支援センター

（所　見）

- 図書館が整備されたことで、文化、学習、情報発信の拠点が確保された。また、複合施設周辺サインや（仮）情報のみち整備事業により、図書館利用の利便性が向上した結果、図書館利用者数が整備前に比べ、2倍以上に増加し、図書館利用の満足度も向上している。
- 図書の1人当たりの貸出冊数は、旧図書館では無制限であったが、現在は20冊に見直されている。また、収蔵冊数が目標を下回っており、新刊の収蔵数が少ない状況にある。
- この様な影響から、市民一人当たりの図書利用冊数は5.7冊から6.4冊へと増加したものの、目標値には届かなかった。

（今後の活用）

読み聞かせ会の定期的な開催をするとともに、旧図書館跡にオープンした子育て総合支援センターなどとも協力して、親子づれや子どもの利用促進に努める。

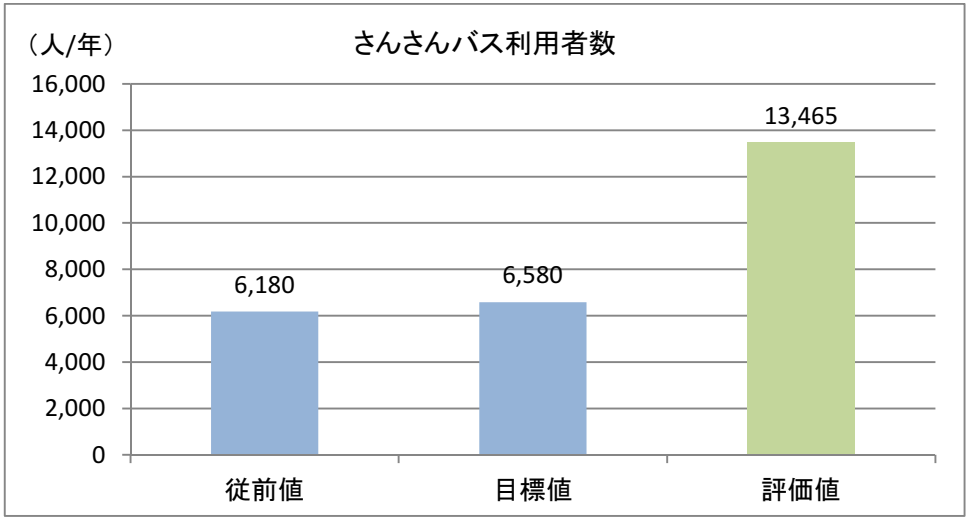
また、情報提供や企画立案により、図書館の利用促進を図るとともに、収蔵図書の充実を図る。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標3　さんさんバス利用者数

従前値：6,180人（平成25年度）
⇒目標値：6,580人（平成28年度）

定義等
さんさんバス利用者数
評価値の求め方
市内巡回バスの市役所西バス停の1年間の利用者数を計測 【補完指標】 補完指標として、市実施の来館者満足度調査における「来館のしやすさの満足度」を計測



従前値6,180人（平成25年度）	目標値6,580人（平成29年度）	評価値13,465人（平成28年度）

補完指標：「来館のしやすさの満足度」：83.3%（平成25年度）⇒86.1%（平成28年度）
満足度が上昇しており、施設整備による効果の発現がみられる。
（各年来館者満足度調査結果）

（仮）地域交流センター、図書館（図書館学習交流プラザ『サンライブ』）の整備に伴いにぎわいと交流が促進されたこと、また、「市役所西バス停」を施設に併設させて1箇所に統合することで、安全性及び利便性が向上した結果、施設に隣接するさんさんバスの市役所西バス停利用者数が増加し、目標が達成された。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標3　さんさんバス利用者数

従前値：6,180人（平成25年度）
⇒目標値：6,580人（平成28年度）

指標直接該当事業

（基幹事業）高次都市施設（地域交流センター）
（地方都市リノベーション事業）

- （仮）地域交流センター

（基幹事業）地方都市リノベーション推進施設（教育文化施設）

- 図書館

指標間接該当事業

（基幹事業）地域生活基盤施設（情報板）
（地方都市リノベーション事業）

- 複合施設周辺サイン

（基幹事業）高質空間形成施設（カラー舗装）

- （仮）情報のみち整備事業

（所　見）

- （仮）地域交流センター及び図書館の整備により、市役所付近に市民が安心安全に交流出来る拠点が整備され、にぎわいが創出された。
- 以前、道路の両側に配置されていた「市役所西バス停」を施設に併設させて1箇所に統合することで、安全性及び利便性が向上した。
- これにより、（仮）地域交流センター及び図書館に隣接するさんさんバス「市役所西バス停」の利用者数増加につながった。

（今後の活用）

市民の交流拠点を有効活用し、にぎわいを維持していくため、今後も交通手段を確保しつづける必要がある。

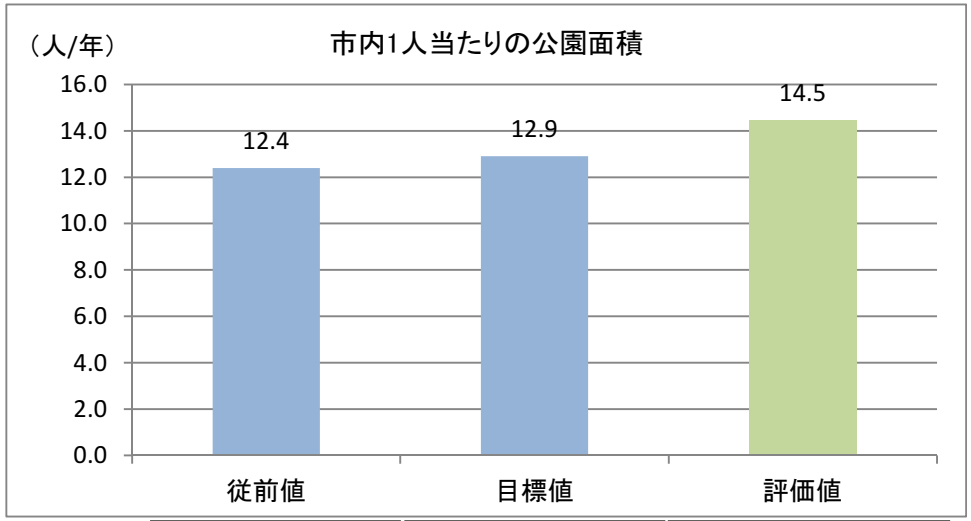
また、将来ビジョンに従い、公共公益施設の整備や商業施設の充実を図る。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標4　市内の１人当たりの公園面積

従前値：12.4㎡/人（平成25年度）
⇒目標値：12.9㎡/人（平成29年度）

定義等
市内の１人当たりの公園面積
評価値の求め方
市内の供用済み都市公園の面積と人口をもとに、１人当たりの公園面積（㎡／人）を計測 【補完指標】 補完指標として、行政評価アンケートにおける「緑豊かで快適な美しいまちづくりの満足度」及び「生活環境の確保の満足度」を計測



従前値12.4㎡/人（平成25年度）	目標値12.9㎡/人（平成29年度）	評価値14.5㎡/人（平成28年度）

補完指標：「緑豊かで快適な美しいまちづくりの満足度」　：68.7%（平成25年度）⇒70.6%（平成27年度）
「生活環境の確保の満足度」　：62.0%（平成25年度）⇒66.9%（平成27年度）
いずれも満足度が上昇しており、公園整備による効果の発現がみられる。
（各年行政評価アンケート調査結果）

公園が計画どおりに整備されたことにより、評価値が目標値を上回る結果となった。

2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理

指標4　市内の１人当たりの公園面積

従前値：12.4㎡/人（平成25年度）
⇒目標値：12.9㎡/人（平成29年度）

<u>指標直接該当事業</u>

（基幹事業）公園

- 中島地区公園整備

（関連事業）

- 前田緑道整備事業

<u>指標間接該当事業</u>

（基幹事業）地域生活基盤施設（情報板）
（地方都市リノベーション事業）

- 複合施設周辺サイン

（所　見）

- 公園が計画的に整備されたことで、市民が安全で安心して活用出来る施設が増加した。
- このため、1人当たりの公園面積の実績値が評価値を上回る結果となった。

（今後の活用）

今後も継続して、安全で安心して活用出来る施設を維持するため、定期的な清掃などを始め、公園施設の計画的な維持管理に努める。

3.実施過程の評価

モニタリングの実施状況、住民参加プロセス、
持続的なまちづくり体制の構築

■（仮称）みよし市図書館学習（仮称）みよし市図書館学習 交流 プラザ
愛称募集

応募期間：平成27年6月15日（月）～27年7月15日（水）

概　　要：市内在住者、市内在学者及び市内在勤者を対象に、（仮称）
みよし市図書館学習（仮称）みよし市図書館学習 交流 プラザ
の愛称を募集した。応募総数205点から、「サンライブ」に決定。

■図書館学習交流プラザ「サンライブ」内覧会の開催

開催時期：平成28年6月25日（土）、6月26日（日）：計12回

概　　要：市内在住、在学、在勤者を対象として、定員を先着60名として
内覧会を実施し、サンライブ開館にむけて市民へ周知を図った。

資料２
様式2

都市再生整備計画　事後評価シート(原案)

みよし市なかよし中央地区

平成29年9月

愛知県みよし市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	みよし市	地区名	なかよし中央地区		面積	38.2
交付期間	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	2,337	国費率	0.499	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	中島地区公園整備（公園）、複合施設周辺サイン（地域生活基盤施設（情報板））、（仮）地域交流センター（高次都市施設（地域交流センター））
	提案事業	（仮）図書館（地域創造支援事業）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した	基幹事業	－	－	－
		－	－	－
新たに追加した事業	基幹事業	（仮）情報のみち整備事業（高質空間形成施設（カラー舗装））	文化、情報発信、交流拠点となる図書館と地域交流センターを併設した複合施設と隣接する各種公共施設のアクセスを担うルートとして位置付けられるため、関連事業から基幹事業へと変更する。	影響なし。
		図書館（地方都市リノベーション推進施設（教育文化施設））	文化、情報発信、交流拠点となる図書館と地域交流センターを併設した複合施設を市役所駐車場内に建設することで施設の更新と機能の増強を図り、今まで交流する機会の乏しかった市内3地区の市民交流を盛んにし、中心拠点区域の賑わいを創出する施設として、提案事業から基幹事業へと変更する。	（指標2）市民一人当たりの図書利用冊数に関わるため、目標値を6.7冊/人から6.9冊/人へ変更して対応した。
	提案事業	－	－	－

交付期間の変更	当　初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	変　更	なし	－

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	交流施設の利用者数	人/年	47,355	H25	50,559	H29	－	65,423	○	あり		（仮）地域交流センターの整備により、文化、学習、交流に関して高度化、多様化した市民ニーズへの対応が可能となるとともに、複合施設周辺サインや（仮）情報のみち整備事業により、利便性が向上した。 この結果、（仮）地域交流センターの利用者が増加し、目標達成へとつながった。	平成30年4月
										なし			
指標2	市民一人当たりの図書利用冊数	冊/人	5.7	H25	6.9	H29	－	6.4	△	あり	●	複合施設周辺サインや（仮）情報のみち整備事業により、図書館利用の利便性が向上した結果、図書館利用者数が整備前に比べ、2倍以上に増加している。一方、図書の1人当たりの貸出冊数の見直しや新刊の収蔵数が少なくなったことの影響から目標値を下回る結果となった。	平成30年4月
										なし			
指標3	さんさんバス利用者数	人/年	6,180	H25	6,580	H29	－	13,465	○	あり		（仮）地域交流センター及び図書館の整備により、市役所付近に市民が安全に、また、安心して交流出来る拠点が整備された。また、バス停の集約により利便性の向上が図られた。これにより、施設に隣接するさんさんバス「市役所西バス停」の利用者数増加につながった。	平成30年4月
										なし			
指標4	市内の1人当たりの公園面積	㎡/人	12.4	H25	12.9	H29	－	14.5	○	あり		公園が計画的に整備されたことで、市民が安全で安心して活用出来る施設が増加した。このため、1人当たりの公園面積の実績値が評価値を上回る結果となった。	－
										なし			

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	おはなし会・講座などの催し物の満足度	%	82.1	H25				91.8（H28）			満足度が上昇しており、施設整備による効果の発現がみられる。	－
その他の数値指標2	全体の満足度	%	88.7	H25				90.2（H28）			図書館利用者の満足度がが高く、また88.7%から90.2%に増加しており、施設整備による効果の発現がみられる。	－
その他の数値指標3	図書館利用者数	千人/年	110.9	H25				274.5（H29）			図書館利用者数が2倍以上に増加し、施設整備による効果の発現がみられる。	－
その他の数値指標4	来館のしやすさの満足度	%	83.3	H25				86.1（H28）			満足度が上昇しており、施設整備による効果の発現がみられる。	－
その他の数値指標5	緑豊かで快適な美しいまちづくりの満足度	%	68.7	H25				70.6（H27）			満足度が上昇しており、公園整備による効果の発現がみられる。	－
その他の数値指標6	生活環境の確保の満足度	%	62.0	H25				66.9（H27）			満足度が上昇しており、公園整備による効果の発現がみられる。	－

4）定性的な効果発現状況

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	○（仮称）みよし市図書館学習 交流 プラザ愛称募集 ○図書館学習交流プラザ「サンライブ」内覧会の開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた		なし
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	○	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

みよし市なかよし中央地区（愛知県みよし市）　都市再生整備計画事業の成果概要

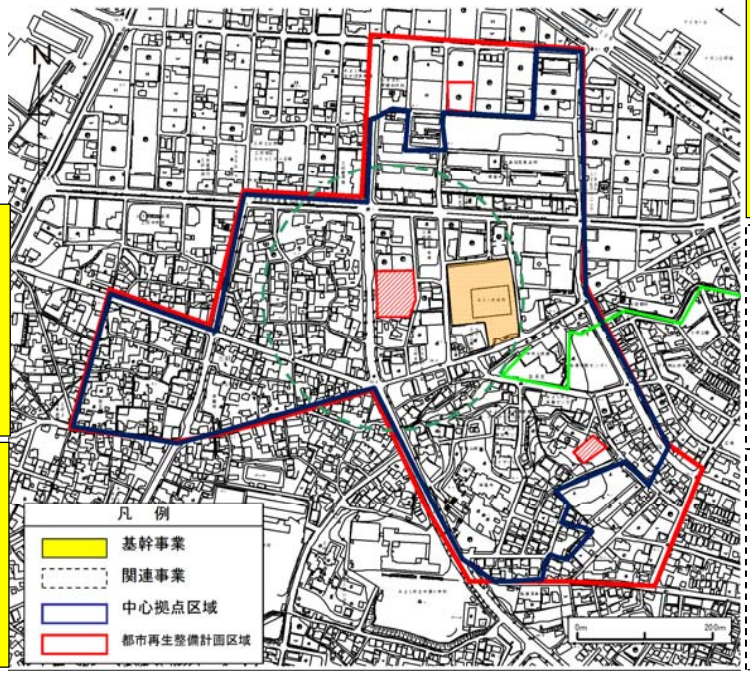
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
「市民が気軽に集い交流できる魅力ある中心市街地の構築」 ・文化・学習・交流をキーワードとした誰でも利用できる情報拠点を中心としたにぎわいと魅力あるまちづくり ・市民が気軽に集うことができる安心安全な交流・活動の機会を創出 ・都市中枢機能が集約した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり	交流施設の利用者数	単位：人／年	47,355	H25	50,559	H29	65,423	H29
	市民一人当たりの図書利用冊数	単位：冊／人	5.7	H25	6.9	H29	6.4	H29
	さんさんバス利用者数	単位：人／年	6,180	H25	6,580	H29	13,465	H28
	市内の１人当りの公園面積	単位：㎡／人	12.4	H25	12.9	H29	14.5	H28

■基幹事業
地方都市リノベーション推進施設（教育文化施設）：図書館

■基幹事業
地域生活基盤施設（情報板）（地方都市リノベーション事業）：複合施設周辺サイン

■基幹事業
公園：中島地区公園整備

■基幹事業
高次都市施設（地域交流センター）（地方都市リノベーション事業）：（仮）地域交流センター



■基幹事業
高質空間形成施設（カラー舗装）：
（仮）情報のみち整備事業

○関連事業
前田緑道整備事業

○関連事業
（仮）駐車場整備事業

○関連事業
（仮）子ども総合支援センター

まちの課題の変化	○達成されたこと ・図書館、生涯学習、公民館、交流機能の更新により、4つの機能を集約したことで、文化、学習、情報発信の拠点が確保され、今まで交流の少なかった市内3地区の市民交流の活性化に寄与した。 ・市役所をはじめ、三好公園などの周辺施設と中心拠点との連携ができ、ネットワークの良好性が向上した。 ・中心市街地の老朽化した施設の更新が図られ、旧図書館を（仮）子ども総合支援センターとして既存ストックを有効活用し、子育てに関する相談窓口、親子で遊べるふれあい広場、ファミリーサポートセンターを移転させることで、子育て世帯をサポートする拠点が確保された。 ・「市役所西バス停」を施設に併設させて1箇所に統合することで、安全性及び利便性が向上した。 ・市役所付近を中心として、図書館、（仮）地域交流センター、（仮）子ども総合支援センター、公園の整備をはじめ、都市中枢機能の集約・更新が図られた。また、災害時の防災副拠点として市役所との連携を図ることができるようになった。 ・複合施設周辺サインや（仮）情報のみち整備事業により、隣接する市役所駐車場の利用ができることから、（仮）地域交流センター及び図書館利用時の利便性が向上した。 ・公園が計画的に整備されたことで、近隣住民が安心して使用できる施設が確保された。 ●事業後に残された課題 ・図書館の利用者数、貸出冊数は増加しているものの、今後も図書館の利用促進を図るための企画立案を始め、情報提供など、各種対策が求められる。 ●新たな課題 ・整備された拠点施設や緑道等の利用促進を今後も図ることが求められる。 ・生涯学習講座の充実や（仮）地域交流センターを活用する新たな企画などの立案により、施設の利用促進を図ることが求められる。 ・安全・安心な公共施設を維持するため、適切な施設の管理・運営が求められる。 ・さらなる市民間交流のための、バス等の交通網のアクセス環境の維持・改善を図ることが求められる。 ・中心市街地のにぎわいが創出されることで、施設を利用する歩行者・自転車や駐車場に出入りする車両が増加するため、安全の確保が求められる。 ・土地の高度利用や既成市街地の整備を促進し、さらなる活力にある中心市街地を形成する。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・図書館や（仮）地域交流センターの利用促進を図るための企画の立案や各種情報の提供を推進する。 ・安全・安心な施設を維持するため、定期的な点検や早期修繕を行う。 ・中心市街地への来訪を促すため、公共交通の維持、充実、中心市街地と周辺施設との連携に更なる利用促進を図る。 ・コンパクトなまちづくりの観点から、賑わいの創出や、歩行者・自転車の安全確保や安全対策を推進する。

資料１

都市再生整備計画（第2回変更）

みよし市なかよし中央地区
（地方都市リノベーション事業）

愛知県　みよし市

平成２８年３月

・様式は、Ａ４長辺側を、２箇所ホチキス留めすること。

様式1　目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	みよし市	地区名	みよし市なかよし中央地区（地方都市リノベーション事業）	面積	38.2　ha

計画期間	平成　25　年度　～　平成　29　年度	交付期間	平成　25　年度　～　平成　29　年度

目標

「市民が気軽に集い交流ができる魅力ある中心市街地の構築」
・文化・学習・交流をキーワードとした誰でも利用できる情報拠点を中心としたにぎわいと魅力あるまちづくり
・市民が気軽に集うことができる安心安全な交流・活動の機会を創出
・都市中枢機能が集約した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり

目標設定の根拠

都市全体のリノベーション方針（都市構造再編を図るため、都市機能の拡散を防止する等の公的不動産のマネジメントの取り組みを含む）

本市は、旧三好村、莇生村、明越村の3村が合併し、明治39年に現在のみよし市の市域となる三好村が誕生した。みよし市ではこの3 つの村の区域を基本として、総合計画において市域を北から「きたよし」「なかよし」「みなよし」の3 つの地区に区分して地区別の将来像を定め、各地域の特性に合わせたまちづくりを行っている。

きたよし地区は、昭和54年に名鉄豊田線が開通し、三好ケ丘駅、黒笹駅が開設したことで土地区画整理事業による大規模な開発が行われ、現在では市民の約40%が居住する地区となっており、「緑とくらしを大切にするまち」を将来像としている。なかよし地区は、市役所を中心とした行政機能、公益機能、文化・いきがい機能、商業機能、医療・福祉機能が集約しており、「未来を築くにぎわいのまち」を将来像としている、みなよし地区は、既存集落と農地、大規模工場が立地し、活発な生産活動が行われ多くの人々に就労の場を提供しており、「ふるさと交流で元気なまち」を将来像としている。

この内、なかよし地区は古くからまちの中心で、本市の骨格をなす幹線道路である国道153号が東西を横断し、県道豊田知立線が南北を縦断している。本地区は、交通の要衝でもあり、名鉄バス路線とコミュニティバス路線の連結点があることから、交通の利便性が高く、市におけるほとんどの都市中枢機能はなかよし地区の市役所周辺に集約している。具体的には、市役所を中心とする”行政機能”、銀行・郵便局などの”公益機能”、文化センター・中央図書館・中央公民館（老朽化、耐震不足により解体（現在は、市役所に隣接するJAの建物の一部を賃借して機能を確保））といった”文化・交流・いきがい機能”、大型商業施設を中心とする”商業機能”、みよし市民病院を中心とする”医療・福祉機能”などである。市役所の付近にはかつて地元の商店街があったが、国道153号線北側の中心市街地に隣接してできた大型商業施設の開業とともに失われていった。さらに、人口の増加によりなかよし地区の生活区域が拡大したことなどの要因により中心市街地が空洞化してきており、公共空地、低未利用地が増加している。また、既存公共施設の多くは古くに建設されたものであり、狭小であり陳腐化していることから、本市の人口規模に見合った交流、学習など市民サービスの拠点として機能しなくなっており、施設の更新・再配置が不可欠な状況になってきている。今のところ本市の人口は増加傾向、高齢化率も全国平均、愛知県平均と比べても低い状況にあるが、その分、将来的には人口減少、高齢化が急激に進むことが必至であり、持続可能なまちとするために現況において都市中枢機能が集約している強みを活かして、コンパクトで魅力あるまちにしていくことが必要である。

そこで、なかよし地区の市役所を中心とした区域を中心拠点区域と位置付け、中心拠点区域内にある既存の都市中枢機能のうち、図書館、生涯学習機能、公民館機能、交流機能の更新により、4つの機能を集約した複合施設を整備し、中心拠点区域の賑わいを取り戻して魅力を高めていくこととする。

みよし市では、市内部で組織する跡地検討会に基づいて公共施設の統廃合等により使用しなくなった施設を、老朽施設の代替施設や地域のニーズを満たす新たな施設として使用するなど公的不動産の有効活用を図っている。きたよし地区では、都市再生機構が閉鎖解体を予定していた三好ケ丘駅前の商業施設カリヨンハウスを市が取得し、住民票等の申請・発行窓口、子育て支援、地域活動室等の機能を備えた施設にリニューアルした。中心拠点地域においても旧市民病院を隣接する図書館の閉架書庫及び生涯学習センターに転用している。耐震性能の低い市役所は、防災の中心拠点として機能を発揮させるために敷地（駐車場）内で建て替えを行った。公民館跡地は緑道の広場として整備するなど、既存ストックを有効に活用しながら公共施設の更新に伴う再配置を行ってきた。今回整備する施設も市役所の建替え（高層化）で敷地内に必要台数分の駐車場を確保できたことにより、隣接する第3駐車場を建設場所とし、既存の4つの公共施設の機能（図書館、生涯学習機能、公民館機能、交流機能）を集約した複合施設とした。さらに、災害時の防災副拠点として市役所との連携を図ることとしている。そして、使用しなくなる現図書館・旧市民病院（現図書館閉架書庫及び生涯学習センター）跡地は、別の公共施設として利用するための跡地検討会を開催。現図書館を（仮称）子ども総合支援センターに転用する。今後も既存ストックを効率的かつ有効に活用していく方針である。

なお、きたよし地区、みなよし地区については、それぞれの地区がもつ住居、工業、農業などの現在の土地利用形態を維持しながら、それぞれの将来像を目標に土地利用の規制や誘導を行っていく。これらの地区と中心拠点区域は、充実したコミュニティバスの運行により連絡することで、車に頼らなくても都市中枢機能のサービスを享受できるようにして、市民が気軽に集い交流ができる魅力ある中心市街地の構築を目指す。

まちづくりの経緯及び現況

みよし市は、明治22年に3村が合併して現在の市域となる三好村ができ、その後は合併等により行政区域が拡大することはなかった。「みよし」はもともと農業を中心に発展してきた都市であるが、昭和36年に愛知用水が通水すると水不足が解消されたばかりでなく、工業用水の供給が可能となったことからトヨタ自動車や関連する企業の工場が立地しその後の発展の大きな土台となった。昭和54年に市の北端部に名鉄豊田線が開通し、三好ケ丘駅、黒笹駅が開業すると、駅周辺で土地区画整理による大規模な宅地開発が行われた。また、平成5年には東名高速の東名三好I.C.が完成し交通の利便性が増したことから、さらに開発が進んで人口が増加し、平成22年に市制を施行している。同年には(株)東洋経済新報社が全国の市区を対象に調査し、まちの住みやすさを毎年公表している「住みよさランキング」で1位となっている。

この様な変遷を経て発展してきたみよし市であるが、まちの中心は過去から一貫して市の中央部に位置するなかよし地区であり、市役所を始めとする公共施設、金融機関などもなかよし地区に集約しており、分散化することがなかった。しかし近年では公共施設の老朽化、陳腐化に伴い利用者が減少したことや、広域型商業施設の進出に伴い既存店舗が縮小閉鎖したこと、さらに人口の増加により市の生活区域が拡大したことなどの要因により中心市街地が空洞化してきている。

課題

・今後、本市が直面する、少子、高齢化に備え、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを行っていく必要があるため都市中枢機能の集約・更新を図る。
・中心市街地の公共施設は古くに建設されたものであり、狭小で陳腐化しているとともに老朽化が著しく進んでおり、本市の人口に見合った規模の魅力ある施設に更新しながら再配置を行う。
・きたよし地区、なかよし地区、みなよし地区の住民が交流する機会が少ないため、地区間、市民間交流の機会を増やすための施設整備を図る。
・中心市街地内の特性、資源を生かし、景観等に配慮した、知的、文化的ニーズ、自己表現の自主的な活動及びみよし市の情報発信による多用途的な交流を創出する文化、学習、交流の拠点形成を図る。

将来ビジョン（中長期）
「みよし市総合計画」
将来像：みんなで築くささえあいと活力の都市
・成熟型社会に移行する中で、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指す。
・各地域の特性を生かした安心して住める環境づくりを行う。
・地域でボランティア活動をしたり、知識・経験を活かして働ける場、気軽に学ぶ事のできる場や機会を充実し、だれもが楽しく暮らすことのできるまち目指す。
・文化や芸術に親しみながら心豊かに暮らせるまちを目指す。
・地震や大雨などの自然災害に強く、犯罪や交通事故の少ない安全なまちづくりを目指す。
・中心市街地を発展させにぎわいのあるまちとし、鉄道駅周辺も市の玄関口として人々が交流する魅力的な拠点とする。
・地域と学校などが連携して、豊かな教養教育を進めます。また、子どもの豊かな育ちをサポートできる地域をつくる。
「まちづくり基本計画」
・都市中心拠点
　交流や集いの場を整備し、まちの中心にぎわいの創出を図る、都市中心拠点に市役所を中心とした、公共公益施設が集まり、銀行、郵便局や大型商業施設が隣接し、生活に必要な機能が集積された地域を都市中心拠点と位置付ける。文化・福祉・健康といった公共公益施設の整備や商業施設の充実により、にぎわいと交流を創出する複合的な都市機能の集積を図るとともに、土地の高度利用や既成市街地の整備、魅力ある都市空間の創出により、本市の顔づくりを進める。

リノベーション事業の計画

都市機能配置の考え方
・みよし市は総合計画で市域を、きたよし地区（北部）、なかよし地区（中部）、みなよし地区（南部）の3つの地区に区分して、地区別に将来像を定めている。
・なかよし地区は、古くからまちの中心であり公共施設や金融機関、医療機関などの都市中枢機能が集約している。また、本市の骨格である幹線道路が交差する交通の要衝であり、名鉄バス路線とコミュニティバス路線の連結点があることから、交通の利便性が高く人が集い交流するのにふさわしいので、市役所を中心とした中心拠点区域に、主な公共施設を集約しておくものとする。
・きたよし地区は、名鉄豊田線が開通し三好ケ丘駅、黒笹駅が開設したことで大規模な住宅開発が行われ、主に名古屋都市圏や豊田都市圏のベッドタウンとなっている。本地区は良好な住宅地であり今後も生活機能の維持に努める。
・みなよし地区は、4つのトヨタ自動車工場や関連する工場と優良な農地が残っている工業、農業区域となっており、今後も現土地利用形態を維持していく。
・きたよし地区とみなよし地区の住民は、充実したコミュニティーバスの運行により、車に頼らなくても中心拠点地域における都市中枢機能のサービスを享受できるようにする。
・全市域において都市計画法による規制に加え、みよし市まちづくり土地利用条例で独自の規制を行うことで、無秩序な民間開発による市街地の拡大を抑制する。

目標を達成する上で必要な「地方都市リノベーション推進施設」「生活拠点施設」の考え方（民間事業者による事業継続の見込みや民間事業に対する行政の支援等を含む）
「地方都市リノベーション施設」
・図書館整備事業：市内で唯一の現図書館は狭小で隣接する旧市民病院の建物に設けた外部書庫で対応している状況であり、バリアフリーにも対応しておらず利便性が非常に悪い。また、一般的な図書館に備わっているAV機器設備がないなど魅力に劣るため、隣接市の図書館を利用している市民が多い。さらに、公民館は耐震力不足、老朽化に伴い平成22年12月に閉鎖、既に取り壊されている。そこで、文化、情報発信、交流拠点となる図書館と地域交流センターを併設した複合施設を市役所駐車場内に建設することで施設の更新と機能の増強を図り、今まで交流する機会の乏しかった市内3地区の市民交流を盛んにし、両施設が併存することの相乗効果で多くの人を呼び込み中心拠点区域の賑わいを創出する。さらに、中心拠点区域が賑わうことにより新たな民間投資を誘発してさらなる経済の活性化につなげ、持続可能なまちを実現していく、

地方都市リノベーションに必要となるその他の交付対象事業等
高次都市施設（地域交流センター）：リノベーション推進施設の図書館と一体的に整備することで、都市機能の集約化、利便性の向上による相乗効果を生み、より一層市民の交流を促進し、中心拠点区域のにぎわい創出に寄与する事業。
地域生活基盤整備施設（情報板）：複合施設の整備に伴い必須となる事業。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
交流施設の利用者数	人／年	複合施設の利用者の内図書利用以外の利用者数	市民交流の増加を複合施設利用者で評価する。	47,355	25	50559	29
市民一人当たりの図書利用冊数	冊／人	年間、一人当たりの図書利用冊数	市民交流の機会の増加を一人当たりの図書利用冊数で評価する。	5.7	25	6.9	29
さんさんバス利用者数	人／年	1年当たりの市内巡回バスの市役所西バス停利用者数	にぎわいと交流の増加を巡回バスの利用者で評価する。	6,180	25	6580	29
市内の1人当りの公園面積	㎡／人	市民1人当りの公園面積	市民交流、活動を市民一人当りの公園面積で評価する。	12.4	25	12.9	29

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【文化・学習・交流をキーワードとした誰でも利用できる情報拠点を中心としたにぎわいと魅力あるまちづくり】 ・市民ニーズの高度化、多様化に対応した文化、学習、交流の情報発信拠点施設の整備を図る。 ・複合施設を中心としたにぎわいの創出を図る。 ・総合公園である三好公園と中心拠点のアクセス性向上を図るため、前田緑道を整備する。	■基幹事業 ・高次都市施設（地域交流センター）（地方都市リノベーション事業）：（仮）地域交流センター ・地域生活基盤施設（情報板）（地方都市リノベーション事業）：複合施設周辺サイン ・地方都市リノベーション推進施設：図書館 ・（仮）情報のみち整備事業 〇関連事業 ・前田緑道整備事業
【市民が気軽に集うことができる安心安全な交流・活動の機会を創出】 ・老朽化し、耐震性能の劣る施設の整備を図る。 ・市民が安心安全で使用できる交流施設の整備を図る。	■基幹事業 ・高次都市施設（地域交流センター）（地方都市リノベーション事業）：（仮）地域交流センター ・地方都市リノベーション推進施設：図書館 ・（仮）情報のみち整備事業
【都市中枢機能が集約した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり】 ・市民が、安全で安心して活用できる施設の配置、整備を図る。	■基幹事業 ・公園：中島地区公園整備 ・高次都市施設（地域交流センター）（地方都市リノベーション事業）：（仮）地域交流センター ・地方都市リノベーション推進施設：図書館 ・（仮）情報のみち整備事業 〇関連事業 ・（仮）駐車場整備事業 ・前田緑道整備事業

その他

事業終了後の継続的な交流拠点としての情報発信・活動

・拠点施設から広く市民に向け、各種事業の情報発信をする。

・適時施設内で行なう各事務事業ごとに評価を行い成果を把握し、適切な事業執行に努める。

・拠点施設を使い、市民が自ら行なう、文化、学習、交流活動及び情報発信の支援を行ない、市民同士の協力により永続可能な交流活動を行なっていく。

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	2,337	交付限度額	1165.8	国費率	0.499

（金額の単位は百万円）

基幹事業

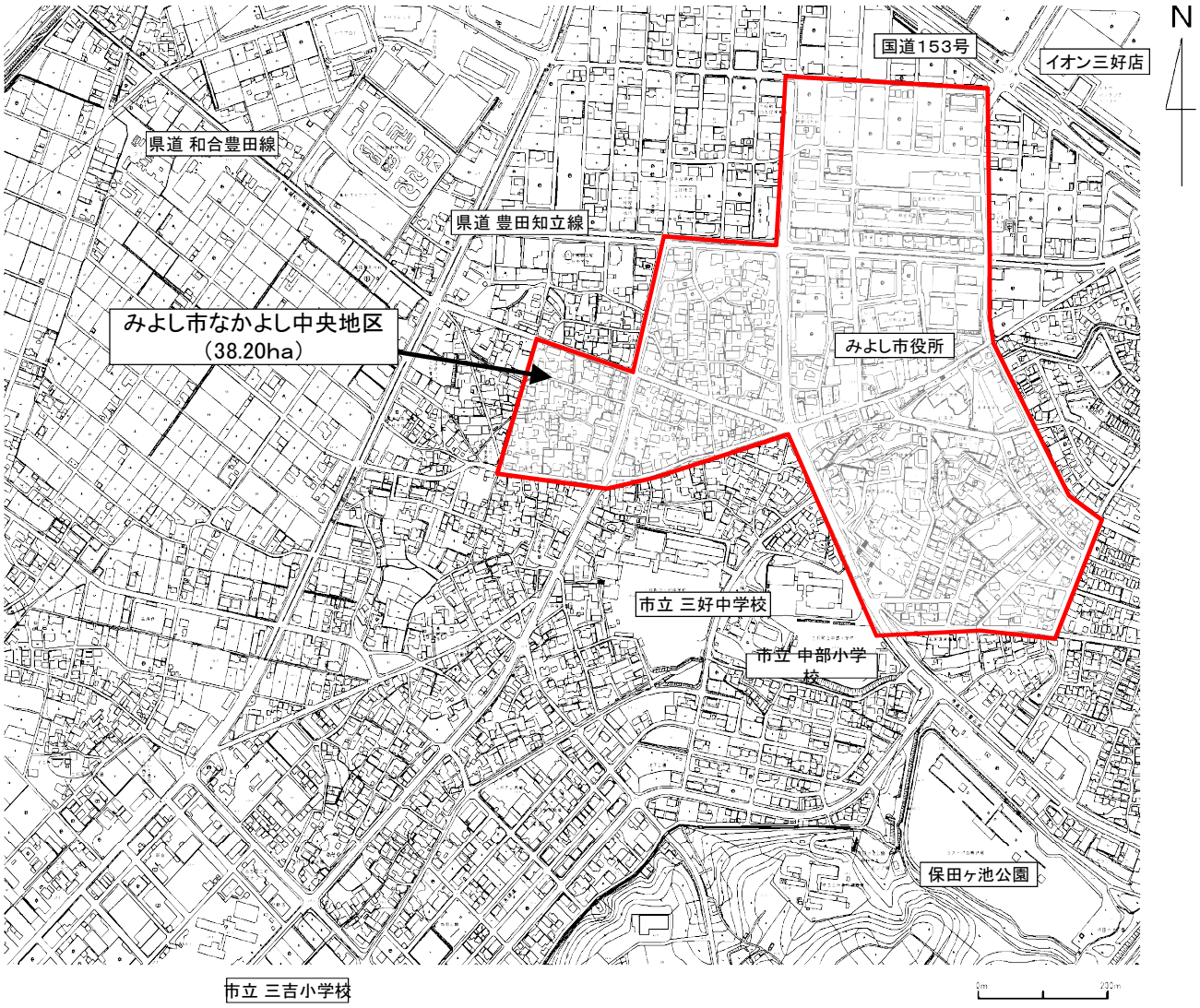
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
道路														
道路（地方都市リノベーション事業）														
公園		中島地区公園整備	市	直	1,400㎡	H25	H25	H25	H25	22	22	22		22
公園（地方都市リノベーション事業）														
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道		―			―									
駐車場有効利用システム		―			―									
地域生活基盤施設（情報板）（地方都市リノベーション事業）		複合施設周辺サイン	市	直	2基	H27	H27	H27	H27	10	10	10		10
高質空間形成施設（カラー舗装）		（仮）情報のみち整備事業	市	直	L=30m	H28	H28	H28	H28	5	5	5		5
高質空間形成施設（歩道上屋設置）														
高次都市施設（地域交流センター）（地方都市リノベーション事業）		（仮）地域交流センター	市	直	2,217㎡	H26	H27	H26	H27	1079.7	1079.7	1079.7		763.0
地方都市リノベーション推進施設（教育文化施設）		図書館	市	直	4,462㎡	H26	H27	H26	H27	2173.2	2173.2	2173.2		1537.0
生活拠点施設（地域交流センター）														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										3,290	3,290	3,290	0	2,337 …A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業														
事業活用調査		―			―									
		―			―									
まちづくり活動推進事業		―			―									
		―			―									
合計										0	0	0	0	0 …B
														2,337

（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
（仮）駐車場整備事業		市		A＝1,800㎡			○		29	29	15
前田緑道整備事業		市	国土交通省	A＝5,000㎡		○			25	29	120
合計											135

都市再生整備計画の区域

みよし市なかよし中央地区（愛知県みよし市）	面積	38.2 ha	区域	三好町湯ノ前、小坂、中島の一部